

令和7年度 学校関係者評価書

学校名	北海道斜里高等学校	校長名	西方英幸	実施日	令和7年3月17日
-----	-----------	-----	------	-----	-----------

1 学校教育目標

社会の変化に対応し、自らの能力で生き抜く力を育成

2 本年度の重点目標

1 主体的に学び、考え、課題解決に向け他者と協働しながら行動する力を身につけさせる 2 キャリア選択に必要な能力を身につけさせる 3 生命を尊重し、健やかな心身を育む力を身につけさせる
--

3 自己評価結果

【教育活動】

項目	今年度の目標	目標達成のための方策と評価の観点	達成状況	自己評価	改善の方策	評価
【学習指導】 主体的かつ協働的な学びの促進	①主体的・協働的な学びの充実	自ら課題を見つけ、協働し主体的に解決する学習活動	2.0	B	来年度も定期考査を年2回で実施。観点別評価の効果的運用を図るとともに、生徒には普段の取組がいつそう重要になっていくことを伝え、モチベーション指導を重視していく。	A1 B11
	②授業改善の推進	互見授業・研修を通じた授業改善	2.0			
	③指導と評価の一体的充実	観点別評価の効果的運用と指導の充実	3.0			
	④教育課程の見直し	特色ある教育課程編成、適切な科目選択指導	3.0			
	⑤ICTを活用した学びの推進	ICTを活用した個別最適かつ協働的な学び	2.0			
評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みは、概ね図られたと思うが、定期考査を2回にした成果・効果を知りたい。 ・学習成果発表会でも学習内容が深まっていると感じた。 ・地域の特性を生かした授業をこれからもお願いしたい。 ・考査を2回にし、日常の授業が評価につながる形に変更指呼とは良いと思う。授業内容が生徒の学力に合わせると協働的な学びが難しいと感じた。 ・学習指導の課題については、小中高で今後さらに交流することが必要と感じた。 					
【生徒指導】 生命尊重と規範意識の育成	⑥基本的生活習慣の確立	挨拶や言葉遣い、身だしなみ等の適切な指導	2.3	B	身だしなみ等に関する指導基準に対し、統一的な指導が可能となっていない。今後は全教職員で連携し継続的な指導にあたり、更なる改善に努める。	B12 C1
	⑦思いやり意識の高揚	自他の生命尊重、いじめや心ない言動等の未然防止	3.0			
	⑧自立的な規範意識の醸成	社会規範を遵守し、問題行動を未然に防ぐ指導	2.3			
	⑨社会性・協働性の涵養	生徒会・部活動・ボランティア活動の充実	2.8			
評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・少し乱れている印象を受けた。 ・気持ちの良い挨拶をする生徒などはいるが、やんちゃな生徒が目立つ現状についての改善をしないと、地域からの評価は変わらないのではと感じた。 ・生徒指導面でのご苦労が感じられました。日頃の取り組み等を生連協で共有できればと感じた。 					
【進路指導】 キャリア選択能力の育成	⑩キャリア教育の充実	総合学科の特色を活かした、自己の在り方・生き方の模索	3.0	B	「産社」「総探」「知床学」での探究活動をより効率的・計画的に充実させていく。スタディサプリを基礎学力向上、進路学習対策ツールとして有効活用していく。	A2 B10
	⑪進学指導の強化	スタサプ全学年導入や探究を活かした実績向上	2.0			
	⑫就職指導の強化	検定・資格取得や探究を活かした就職指導	3.0			
	⑬情報提供の充実	諸検査等のデータを活用した迅速な情報提供	3.0			
評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の数が限られている中で、生徒の進路希望が大学、専門学校、就職と様々なのは大変である。進学へのフォローアップは学校の力だけでなく公設塾が必要であると考えます。 ・総合学科の特色を活かす学校の取り組みに熱意を感じました。今後更なる充実を期待している。 ・学習成果発表会でキャリア教育や知床学の成果を見て、非常に興味深い内容で斜里高校が様々な方向で学びを進めていることがわかった。 					
【健康安全指導】 自律的な健康・美化意識の育成	⑭健康・安全指導の充実	啓発指導を通じた、自律的な健康・意識の高揚	3.2	B	サポート委員会を中心に、引き続き特別な配慮を必要とする生徒についての情報を共有し、対応を協議していく。	B12
	⑮特別支援教育の充実	実態把握や共有、関係機関との連携	3.0			
	⑯教育相談体制の充実	SCとの連携等、校内サポート体制の強化	3.5			
	⑰校内外の環境整備	学習環境の整備や美化活動	3.0			
評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態を考えると、特別支援が必要な生徒も多いと想定できます。専門教員の配置が難しいかと思いますが、出身中学校との引継ぎを詳細まで確認し個人カルテ等を用意するなどの配慮が必要かと感じた。 ・安全指導や特別支援教育など、今後町教振等で共有できればと考える。 					

【学校運営】

項目	今年度の目標	目標達成のための方策と評価の観点	達成状況	自己評価	改善の方策	評価
【信頼される学校づくり】 社会に開かれた学校づくり	①国内留学生の受入充実	国内留学生（高2、高校進学）の教育効果を高める	3.0	A	留学生5期生は、学校内外での活動に精力的に寄与し、地域貢献も果たしている。地学協働の成果の発信、地域への周知が課題。	A 8 B 3
	②地域との連携強化	地域との協働により、学校の信頼度を高める	4.0			
	③保護者との信頼構築	PTA 活動等を再構築し、情報交換や交流を図る。	3.4			
	②ESD(※)の推進	教育活動全般における ESD の理念を踏まえた取組	3.5			
評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・地元生徒への良い刺激になっていると感じた。 ・地域の人材と関わり、地域に開かれた学校であると同時に、地域の方々が持っている斜里高のイメージを払拭することも大事であると思う。 ・学習成果発表での小中との交流は続けると良いと思う ・国内留学の成果はすばらしいと思う。 					
【組織運営】 課題共有と解決に向けた協働体制	⑤新たな課題への対応	研修に意欲的に取り組み、新たな課題への対応力	3.6	A	引き続き、チームとしての協働体制を重視し、効率的・効果的な教育活動を維持していく。	A 9 B 3
	⑥職場の心理的安全性の確保	発言が尊重されるなど、心理的安全性の確保	3.5			
	⑦組織力の向上	教職員の力を結集し、協働的な組織として業務にあたる	3.8			
	⑧働き方改革の推進	ICT 活用による効率化と業務縮減に向けた取組	3.5			
評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校がチームとして協働していると感じました。今後の取り組みにも期待する。 					
【教職員の資質向上】 教育公務員としての自覚と責任の涵養	⑨授業力の向上	授業と評価の改善、学力向上に向けた取組	3.2	A	引き続き効果的な研修に努めている。	A 10 B 2
	⑩人材育成の充実	授業評価、教員相互の授業見学による指導力の向上	3.5			
	⑪服務規律の保持	服務上・身分上の義務、法令遵守に基づく服務規律の徹底	3.5			
	⑫危機管理意識の徹底	危機管理に関する情報教共有等	3.5			
評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた教員数中で教科だけではなく総合探究の授業づくりや総合学科としての授業開設は大変かと感じる。 ・若手教員の人材育成についてより効果的な研修について期待する。 					

(※)Education for Sustainable Development

自己評価の指標

【達成状況の指標（教職員による評価）】

- 4 具体的な取組が行われており、目標等の達成が期待できる。
- 3 具体的な取組が行われている。または、具体的な取組に向けて積極的に検討中である。
- 2 組織（分掌・学年等）として一般的な議論はしたが、具体的な取組に向けての検討に至っていない。
- 1 課題の重要度は理解しているが、全くあるいはほとんど検討していない。

【評価の指標】

- | | |
|-------------------|------------------------|
| A 十分な取組が行われた。 | B おおむね十分な取組が行われた。 |
| C やや不十分で改善が必要である。 | D 取組が不十分で抜本的な改善が必要である。 |

学校関係者評価の指標

【評価の指標】

- | | |
|-------------------|------------------------|
| A 十分な取組が行われた。 | B おおむね十分な取組が行われた。 |
| C やや不十分で改善が必要である。 | D 取組が不十分で抜本的な改善が必要である。 |